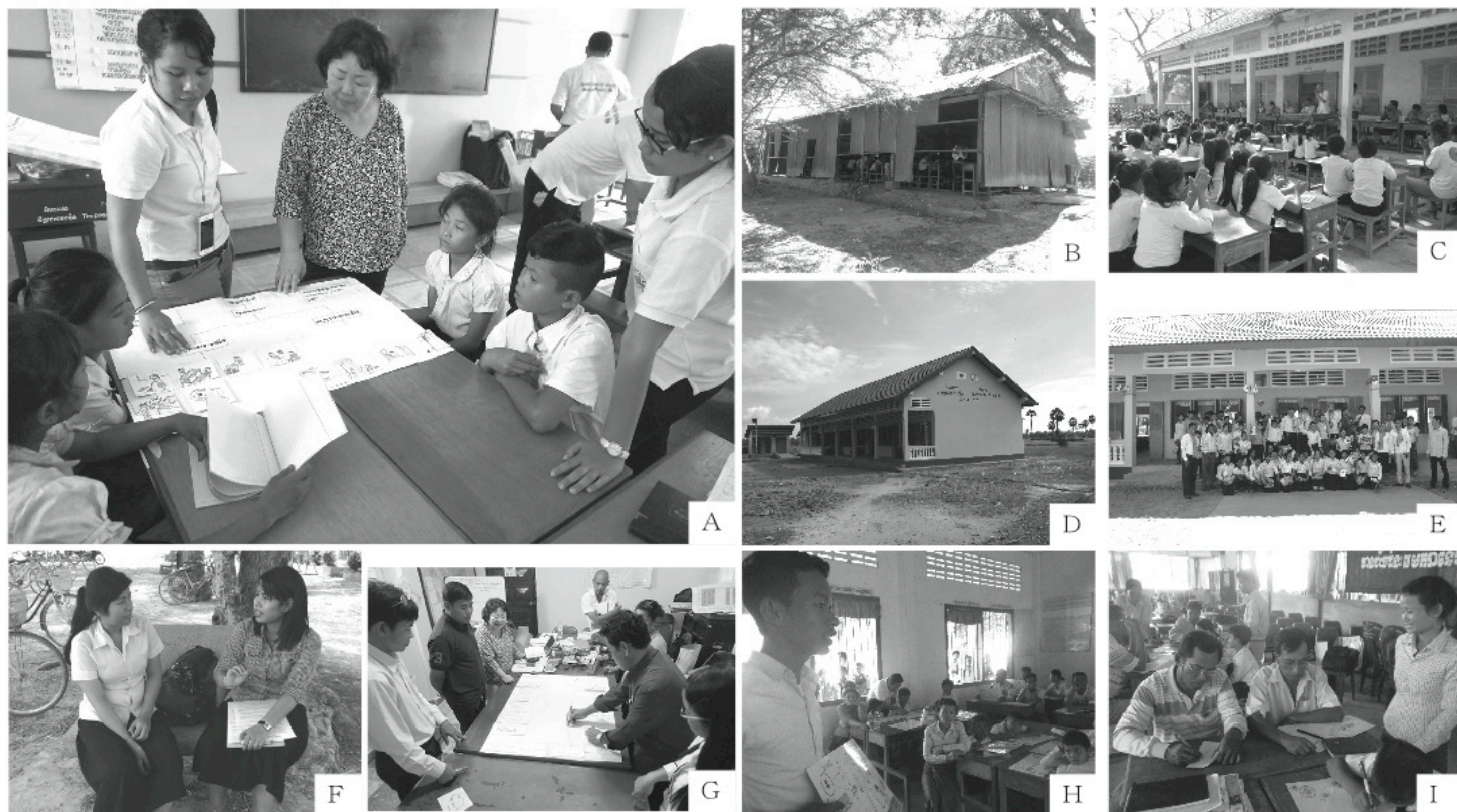


# 衛生指導 (カンボジア)

2015年度は、外務省の日本NGO連携無償資金協力の助成金(総額:約29.5万ドル)により、プレイベン州内の小学校2校と中学校1校を対象として、上位目標の「学習環境改善及び衛生的環境が維持されるための体制が構築される」を達成するために、以下のA~Cの小目標を設定し、各種活動を実施しました。



<b>目標A</b>	<b>対象校3校の学習及び衛生環境が改善される</b>
<b>活動</b>	(1)ベースライン調査、(2)校舎建設、既存校舎修理及び付帯施設の建設支援実施【写真B、C、D】、(3)対象校の学習に必要な備品の設置、(4)贈呈式の実施【写真E、4ページ上段写真参照】
<b>成果</b>	クランリウ小学校、コークラウ小学校、チエンダイ中学校の対象3校に必要な教室、トイレ、給水設備を建設・贈呈し、安全で衛生的な教育環境を提供できた。教員、生徒の満足度は高く、2015年11月から2016年1月までの3ヶ月間の出席率は90%以上。トイレ1部屋あたりの生徒数は、3校平均で158人/室から72人/室まで減少した。
<b>目標B</b>	<b>対象校3校の衛生理解が促進される</b>
<b>活動</b>	(1)衛生知識等に関するベースライン調査【写真F】、(2)衛生専門家(工藤芙美子氏)による「スタッフ対象衛生トレーニング①」の実施【写真G】、(3)JHPスタッフによる対象校代表の衛生教育理解のための「生徒対象衛生ワークショップ①」の実施【写真A】(4)工藤氏による「スタッフ対象衛生トレーニング②」の実施、(5)JHPスタッフによるフォローアップ、トレーナー養成のための「生徒対象衛生ワークショップ②」の実施、(6)生徒代表による対象校生徒対象の「校内普及ワークショップ」の実施【写真H】
<b>成果</b>	衛生ワークショップ後に各校で生徒により清掃目標、スケジュールなどが設定され、実行されている。2月1~5日まで、評価専門家の岩城岳央氏による外部評価が行われ、対象校生徒とのグループディスカッションを行ったところ、60人中57人(95%、女子生徒では100%)がトイレを利用していることがわかった。
<b>目標C</b>	<b>学校運営能力が強化される</b>
<b>活動</b>	(1)学校関係者との協議会【写真C】、(2)建設後の贈呈式開催【写真E】、(3)生徒対象衛生ワークショップ①への教育行政官の参加、(4)生徒対象衛生トレーニング②への教育行政官の参加、(5)生徒対象衛生トレーニング②への教育行政官の参加、(6)生徒対象衛生トレーニング②への教育行政官の参加、(7)郡教育局による衛生理解普及のための会合実施。
<b>成果</b>	教育行政官と学校との間に密接な関係が構築され、各学校には適切な人数の教員が配置された。また、対象校を含む郡内の学校を対象とした会合が開かれ【写真I】、衛生教育の経験、手法、ツールなどが共有されたことにより、今後、他校にも理解が広まることが期待できる。成果品として、衛生的な学校を維持するためのガイドライン(冊子)が完成し【写真J】、配布を行った。

